

今年度のボランティア活動を振り返って

—— 地域とともにある学校をめざして ——

○ 読み聞かせ「バスがきましたよ」から

「おはようございます」

小さなかわいい声が聞こえてきました。

「バスが来ましたよ」

わたしのこしのあたりに、

小さな手がそえられたのが、わかりました。

「えっ……」

白杖をにぎりしめていたわたしの手が、

ふわっとゆるみました。

(『バスが来ましたよ』アリス館 より引用)

今年度は、26日間(110時間)、中学生の子どもたちへの「絵本の読み聞かせ」が予定されていましたが、インフルエンザ等による中止がありました。2月6日、無事終了することができました。

「バスが来ましたよ」は、実話をもとにした絵本です。

絵本を通して伝えたいことや、感じてほしいことがあります。

この絵本は、ゆっくり読んで10分でおわります。目線を子どもたちに投げかけながら読んでいきます。最後の文は、

「これからも子どもたちのなかで、

ぬくもりがリレーされていきますように……。」

です。この「ぬくもり」が、どんなものなのかはひとそれぞれです。それぞれの心の中に形づくられたことと思います。

主人公にとって、「バスが来ましたよ」の呼びかけは、本当にうれしかったことでしょう。女の子は、「知恵と勇気」を持っているように思います。女の子は、「ひと言」が相手の気持ちを揺さぶることに気づき成長したように思います。それがまわりの子に伝わり、まわりも成長したのです。だから長く続いたのだと思います。

この輪が大人にも伝わることで、住みやすい世の中が実現できます。

住みやすい世の中とは、弱い立場の人たちが安心して過ごせることです。

誰にも「老い」が来ます。他人事ではありません。

○ 卒業生も参加しての「花うえ」

年2回行われました。夏と冬。ボランティアの方も参加してくれました。

その中に、西中の卒業生の姿がありました。

ある会議で、花うえがあることを話したことがあります。そのことが家庭で話題になったのではないか、それならばということで、参加してくれたと思います。先生たちとの会話がはずんでいたのをおぼえています。

花壇には、いろいろな人たちの思いの詰まった花が咲いています。

来年度も花うえはあります。あなたの参加を切に願うものです。

○ 地域の方ができること

天理市のすべての公立小中学校は「コミュニティスクール」になっています。こんなスローガンがあります。

学校が変われば地域が変わる
地域が変われば子どもが変わる
子どもが変われば未来が変わる

これは、「地域と共にある学校づくり」において「子ども」「学校」「地域」の好循環が進むことで、子どもが成長し、地域社会が豊かになり、希望にあふれる未来になるようにとの願いが込められています。

コミュニティスクールは、地域とともにある学校づくりの取り組みをさらに充実させ、それを続けさせるための有効な手段といえます。

通学途中の子どもに声をかけてみて下さい。子どもたちは挨拶を返します。まず、こちらから声をかけることです。玄関に出て声をかけてください。

やってみて下さい。声が返ってくるまで・・・。

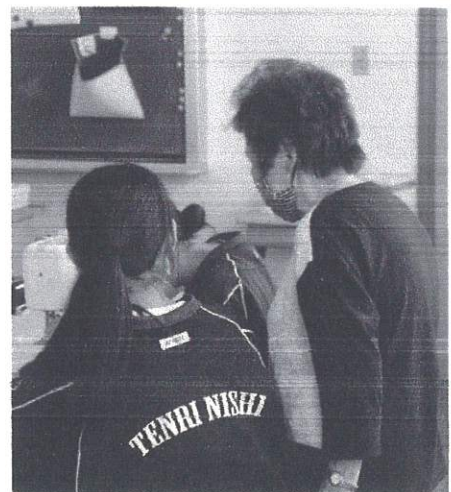
一度や二度で諦めてはいけません。

○ 改めてボランティア活動を

家庭科という科目があります。実技をと
もありません。そこでボランティアの登場です。

記録によりますと、今年度（1月末）までに、36日間、55時間のボランティア活動がありました。記録漏れもあると思いますが、大きな誤差はないと思います。

各時間、複数のボランティアさんが入った
こともありましたので、かなりの人数になるうか
と思います。その一コマが、右の写真です。



（家庭科 被服実習）

また、図書ボランティアの方は、毎週水曜日活動されていまして。

職員会議等で顧問が不在になるときは、「部活動の見回り」をしました。今年度は7回あり、延べ19人の人々が参加して下さいました。

十分にできたとは思いません。まだまだ改善の余地を感じます。

これからもご協力をお願いします。

（文責 コーディネーター東口明史）